

質的調査の方法

◆観察法

- ① 自然観察法
ありのままの日常生活の行動について一切制限を加えずに、観察する研究方法。
- ② 実験的観察法（統制的観察法）
研究者によって意図的に環境をコントロールし、観察する研究方法。
- ③ 参与観察法
調査対象と生活や経験をともにしながら、調査対象の行動の意味を理解しようとする方法。
- ④ 非参与観察法
外から観察して行動を記録する方法。
- ◆面接法
- ⑤ 自由面接法
質問の方向を決めず、自由な会話を実施し、自由な会話のやりとりのなかで質問する事例調査の方法の一つ。
- ⑥ 非指示的面接法
質問の仕方を厳密に指示しない面接方法。
- ⑦ 深層面接法
調査のテーマだけが示され、どのようなアプローチをするかは質問者に任ざれている面接方法。
- ⑧ 半構造化面接法
質問すべき事項をインタビュー・ガイドにまとめる程度の準備をして質問する面接方法。
- ⑨ フォーカス・グループ・インタビュー
特定問題に密接にかかわるグループを相手に行う面接方法。
- ⑩ 事例研究（ケーススタディ）
事例そのものを研究対象とし、問題解決に向けたアプローチを見出すことを目指す分析方法。

◆質的調査における記録の方法と留意点

- ⑪ フィールドノート
インタビュー調査や観察調査による記録やメモを総称して、フィールドノートという。
- ⑫ トランスクリプト
録音されたインタビュー内容を逐語録として文字起こす作業をいう。また、逐語録をトランスクリプトという。
- ⑬ コーディング
フィールドノートをもとに、データを解釈し、小見出しを作る作業。質的調査におけるコーディングは、量的調査のコーディングと見分けるため「定性的コーディング」ということもある。
- ⑭ 厚い記述
観察された事象をありのままに記述するだけでなく、その事象が本人にとってどのような意味をもつものなのか理解できるように、行為や出来事が起きた文脈や全体の状況も含めて記述すること。
- ⑮ 事象への密着性・忠実性
観察された状況について、リアリティのある、生き生きとした記述で表現すること。
- ◆質的調査のデータの整理と分析
- ⑯ エスノグラフィ
エスノグラフィには、次の2つの場合がある。
①対象者の手紙や日記、口述データなどを収集し、他者の生きる生活世界や背景にある文化を描く質的調査方法。
②その調査の結果、書きあげられた報告書のこと。
- ⑰ KJ法
KJ法は、川喜田二郎が開発した質的データ分析法で、開発者のイニシャルからこうよぶ。データをカードに書いて細分化し、グループ化と見出しづけの作業を繰り返し行い、焦点を絞り込んでいくもの。
- ⑱ グラウンデッド・セオリー・アプローチ
グレイザー（Glaser,B）とストラウス（Strauss,A）によって考案された質的データ分析方法。データの解釈から説明力のある概念の生成を行い、そうした概念の関連性を高め、まとまりのある理論をつくる。日本では、木下謙二（1999年）によるデータを切片化しない「修正版グラウンデッド・セオリー・アプローチ（M-GTA）」も広く活用されている。
- ⑲ ナラティブ分析
調査対象者の語り（ナラティブ、物語）にある順序性やシークエンス（継ぎ連鎖）も含め、現象を理解する方法をいう。
- ⑳ トライアングレーション
2人以上がかかわり、同じプログラムの研究において異なったアプローチでデータを収集・分析する方法。